

サプライチェーン・ロジスティクスの全体最適に向けて

LOGI-EVO

デジタルマガジン 月刊ロジスティクス・エボリューション

2025年
11月号

(株)サムライプレス

CONTENTS

＜連続特別企画＞コールドチェーンの最前線①

冷凍冷蔵物流施設と冷凍保管サービスの両輪で コールドチェーンにおけるブランドを確立

需要拡大する低温物流市場で際立つ存在感
霞ヶ関キャピタル(株)



東海地方における物流効率化を目的に協業を開始

輸送ルート一元化でトラック積載効率向上とドライバー業務負担軽減図る
コカ・コーラ ポトラーズジャパン(株)、中部興産(株)、(株)スギ薬局



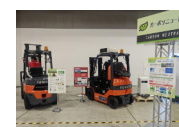
常設展示MH機器のデモ稼働を公開

新設ショールーム「さいたまラボ」に関係者を招待
ベーヴェ システック ジャパン(株)



「物流ソリューションフェア2025」に多数の物流関係者が来場

自動化や環境、安全などを訴求した最新ソリューションが目白押し
(株)豊田自動織機 トヨタL&Fカンパニー



『『つな木つながる』プロジェクト』『薄型軽量ボルトレスラック』 が 2025年度グッドデザイン賞を受賞

三進金属工業(株)



「UCHIDA BUSINESS IT FAIR 2025」を開催

物流に関連するセッション・展示も注目を集める
(株)内田洋行





モノを動かし、心を動かす。

エアポート向けソリューションが実現する、その先の未来。



ダイフクコーポレートサイト



ダイフクは先進的な空港向けシステムをグローバルで提供しています。
手荷物の自動預け入れ機や高速搬送システム、さらに、
空港運営システムを支えるデジタルソリューションで、
スマートエアポートの実現に貢献し安全で快適な空の旅を支え続けます。

DAIFUKU
Automation that Inspires

株式会社ダイフク

垂直搬送のプロフェッショナルが
あらゆるニーズにお応えします。



十人十色というように物流現場も千差万別。
だから垂直コンベヤも
現場に合わせて千変万化。
最適化がホクショーの真骨頂です。

Vertical Transfer System

多層層でのランダムな行先
指定を実現、エレベーター
の長所を活かしたプレキシ
ブル対応型。

垂直往復搬送機
オートレーター



垂直連続搬送機
バーチレーター

最小限のスペースで
大量搬送、エスカレー
ターの長所を活かした
垂直搬送機の主力。



垂直仕分け搬送機
ハイター

多品種大量の搬送
物を自動的に仕分
けて任意の階へ
搬出、高速・大量
処理能力を備えた
万能タイプ。



冷凍・冷蔵倉庫対応機種が
充実しています。

垂直搬送システム バラ物自動仕分けシステム 人を活かす道具、それがPASのあり方です。

PASは単なる仕分けコンベヤではありません。
貴社の様々な着想(アイディア)にお応えできる先進性と
道具としての簡便性を兼ね備えた仕分けシステムです。



仕分け
エリア

Piece Assorting System

投入
エリア

導入
効果

オーダーピッキングで活用した場合

- ① 納品精度 [1/100,000以下] が可能。
- ② 1店舗をさらに複数部門に分ける [部門別納品] を実現。
- ③ [手作業に比べ約1/2] の省人効果。

返品処理で活用した場合

- ① 返品(入荷) [検品・棚入れミスゼロ] が可能。
- ② 店舗別 [返品データの自動作成] を実現。
- ③ [手作業に比べ約1/2] の省人効果。



最適なモノの流れを創造する

ホクショー株式会社

最新情報はウェブで

ホクショー

検索

<https://www.hokusho.co.jp>

本 社
TEL.076-267-3111(代) FAX.076-268-2241
〒920-8711 石川県金沢市示野町16

白山工場
TEL.076-275-7711(代) FAX.076-275-7171
〒924-0004 石川県白山市旭丘3-17

東京支店
TEL.03-5719-7011(代) FAX.03-5719-7017
東京サービスステーション
TEL.03-5719-7012(直) FAX.03-5719-7017
大阪支店/大阪サービスステーション
TEL.06-6543-2771(代) FAX.06-6543-2776
名古屋支店/名古屋サービスステーション
TEL.052-932-2781(代) FAX.052-932-2920

北陸支店/北陸サービスステーション
TEL.076-267-3333 FAX.076-267-3317
神奈川営業所/神奈川サービスステーション
TEL.046-231-3212(代) FAX.046-231-3985
北海道サービスステーション(札幌機械メンテナンス株式会社)
TEL.011-215-4341 FAX.011-215-4342
仙台サービスステーション
TEL.022-226-8090 FAX.022-226-8091

中国・四国サービスステーション(株式会社マテックス)
TEL.084-963-8663 FAX.084-962-0082
九州出張所
TEL.092-718-3321 FAX.092-718-3323
九州サービスステーション(株式会社タナカ)
TEL.0940-62-5485 FAX.0940-62-5486
海外営業部
TEL.03-5719-7016 FAX.03-5719-7017

＜連続特別企画＞
コールドチェーンの最前線①

冷凍冷蔵物流施設と冷凍保管サービスの両輪で コールドチェーンにおけるブランドを確立

需要拡大する低温物流市場で際立つ存在感

霞ヶ関キャピタル(株)

近年、食品・医薬品・化粧品などの製造・流通過程で鮮度・品質を保持するため、一貫した低温管理の必要性が高まっており、コールドチェーンが脚光を浴びている。コールドチェーンは、製品の生産から消費までの全工程において、一定の低温度帯を維持しながら輸送・保管・販売を行う物流体系。前述の食品・医薬品・化粧品はもとより、現在では精密機器・部品もその対象となるケースが出てきている。こうした事象を踏まえれば、コールドチェーンが近代社会に必須のインフラであることに疑問の余地はないだろう。そこで今号からはコールドチェーンにフィーチャーし、連続特別企画を開始することにした。本企画のスタートとなる今回は、冷凍冷蔵物流施設や冷凍保管サービスなどの展開で存在感を高めている霞ヶ関キャピタル(株)の取り組みを採り上げる。以下、コールドチェーンの現状、課題などを踏まえつつ、同社の先進的な事業展開についてレポートする。

物流施設開発やホテル開発などの事業を展開 社会的課題となるインフラ領域で独自性発揮

霞ヶ関キャピタルは、主に物流施設開発、ホテル開発、ヘルスケア施設（ホスピス）開発、海外事業（ドバイを中心に）などを展開している。2011年9月に設立され、現在は資本金約190億円でプライム市場に上場。2025年8月期連結決算では売上高が約965億円（前期比約47%増）に達し、各利益も前期比を大幅に上回るなど急成長を遂げている。事業規模としては物流施設開発とホテル開発が大きな割合を占めており、特に近年は物流施設開発の伸びが著しい。

同社イノベーション戦略本部 投資戦略ユニット 副本部長の武内謙介氏（写真1）は

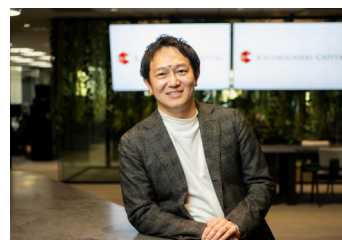


写真1 武内副本部長

図表1 霞ヶ関キャピタル独自の不動産開発対象投資プラットフォーム



※霞ヶ関キャピタル(株)提供資料より抜粋

同社の事業について「当社は不動産デベロッパーとして、土地の取得から開発企画の立案、設計、建設、運用（物流施設であれば賃貸）までを手掛けております。ただ多くの開発プロジェクトを短期間で動かすため、これら全てを自社のバランスシート上で行うのではなく、開発企画の段階で投資家の方々と開発ファンドを組成するなどして、これに土地を売却し、開発ファンドの下で施設開発を進めるというオフバランスの形をとっています。最終的には施設が完成した段階で、開発ファンドから運用型の不動産ファンドに施設を売却し、その売却益を各投資家の皆様に還元することになります。ファンド保有期間中は当社がPJM（プロジェクトマネジャー）もしくはAM（アセットマネジャー）として物件開発を主導していることに変わりはありません。不動産ファンドへの売却後も当社が当該施設のAMを務め、その運用益を生み出し、不動産ファンド投資家の皆様にその運用益を収受していただくことになります。これは物流施設でもホテルでもヘルスケアでも基本的に同じプラットフォームで対応しています（図表1）」と説明する。

武内氏はまた、それぞれ事業の中身について「すでに大手企業が手掛けているような一般化している領域ではなく、未解決の社会的課題となっている領域に特化しています。そこに挑戦するのが当社の理念であり、逆に言えばそこにビジネスチャンスがあるからです。ゆえにハコものを作って終わりとせず、社会的課題を解決するインフラとして、運用面や資金面についても問題なく持続可能な状態にまで仕上げていくことが当社の使命であり、特徴であると考えています」と語った。

冷凍冷蔵倉庫の庫腹占有率はすでにひっ迫 既存冷凍冷蔵倉庫の老朽化で課題山積

我が国のコールドチェーンの現状について武内氏は「急激にというより徐々に需要が増してきたとみています。特に冷凍に関しては、冷凍食品の国内消費推移をみれば明らかで、国民1人当たりの消費量は着実に増えました。女性の社会進出や単身世帯の増加

といった社会構造の変化に加え、冷凍技術の進歩による品質向上などがその要因だと指摘されています。また、冷凍食品は必要な時に必要な量を解凍して使用できるため、フードロス削減の観点からも好ましい技術であると言えます。冷凍食品の市場規模は年間約8,000億円（国内消費額、2024年）に達していますが、一般消費者向けのワンプレート型商品の普及や冷凍宅配食市場の伸長などを加味すれば、今後も着実に市場拡大が進むものとみられており、これに伴ってコールドチェーンの社会インフラとしてのニーズもさらに高まるものと思われます」と話す。

武内氏はまた冷凍倉庫における入出庫作業について「これまでほぼ人手で行われてきましたが、その環境は過酷であり、出庫商品を誤る可能性もあります。当社はこのような状況を踏まえ、データ管理に基づいた自動化を推進しており、こうした取り組みがお客様のご満足につながっていると考えています」と語った。

低温流通食品は冷凍以外でもチルド商品などで市場拡大が続く。コンビニでも冷菓・飲料以外で低温流通された弁当・惣菜や加工食品などが充実しており、冷凍ケースが店舗スペースの1/3近くを占める店舗も見受けられる。値段についてもセントラルキッチン方式で工場生産された商品は長期保存できるため、割安なものが多い。介護施設や給食施設でも調理オペレーションの簡便化で冷凍食品の利用が広がり、業務用食材の冷凍化も着実に進んでいる。

では、これら低温流通食品のサプライチェーンを担うコールドチェーンインフラの状況はどうか。武内氏は「冷凍冷蔵倉庫の供給が市場では徐々に増加しているものの、6大都市を中心としたエリアでの冷凍冷蔵倉庫の庫腹占有率はすでに数年前からひっ迫状態（100%超で推移）にあることを示しています。当社は5年前から冷凍冷蔵倉庫の開発を手掛けていますが、その前には賃貸型冷凍冷蔵倉庫の開発はほぼ行われていなかったようです。自前で冷凍食品を扱っている冷凍倉庫業者さんが一部スペースを貸してるケースはあったようですが、1棟丸ごと賃貸型冷凍冷蔵倉庫を開発し、貸しているケースはなかったと思います。それが現在まで推移し、需要が着実に増しているなかでコールドチェーンにおける保管インフラの不足が深刻化してきたというのが実態だろうとみています」と話す。

武内氏はまた「既存冷凍冷蔵倉庫の老朽化も大きな課題です。冷凍冷蔵倉庫の更新には莫大な資金が必要になるため、なかなか更新が進まず、全国では築20年以上の冷凍冷蔵倉庫が2/3以上となっています。築20年以上の倉庫は設備が古く、消費電力が多いうえ、冷媒に特定フロン（2020年1月製造中止。2030年全廃予定）や代替フロン（オゾン層破壊の原因とはならないが、温室効果が高く地球温暖化の要因。世界的に製造・使用の削減が進んでいる）を使っており、環境負荷の懸念もあります。よってグリーン冷媒と呼ばれる自然冷媒にシフトしていくことが必須であり、冷蔵冷凍倉庫の冷却設備もこれに対応するものに切り替えなければなりません。そのための資金の調達も大変ですが、資金を調達できたとしても、改修や建替の期間、荷物をどこに保管するのが問題になります」と、既存冷凍冷蔵倉庫の眼前にある厳しい状況を指摘。同社はこの状況を社会的課題ととらえたがゆえに「賃貸型冷蔵冷凍倉庫の開発に乗り出し、最初から自然冷媒用の冷却設備を採用しました」とし「投資家の皆様に参加していただける金融スキームを含め、持続可能な冷凍冷蔵倉庫の開発・運営を可能にすることができました」と

語った。

温度帯ニーズをとらえた「LOGI FLAG」を全国展開 小口・短期対応で脚光浴びる「COLD X NETWORK」

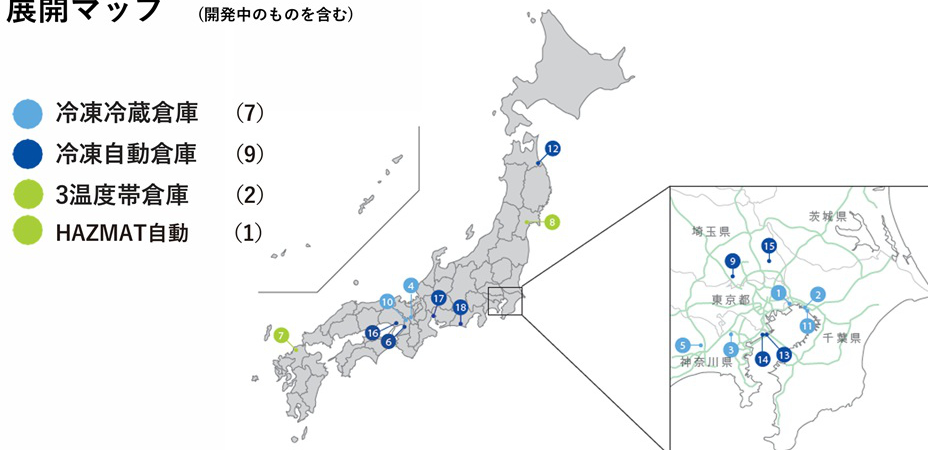
霞ヶ関キャピタルは現在、こうしたコールドチェーンニーズの拡大と冷凍冷蔵倉庫の需要増加に対応し、マルチテナント型賃貸物流施設「LOGI FLAG」を全国に展開している（図表2）。具体的には、冷凍冷蔵倉庫7棟、冷凍自動倉庫9棟、3温度帯倉庫2棟、HAZMAT倉庫1棟（危険物対応。冷蔵冷凍倉庫ではない）の合計19（開発中の施設を含む。竣工施設は10棟）で、このほか土地取得手続き中の案件も多数抱えているという。

武内氏は「当初はBOXタイプの冷凍冷蔵倉庫開発を進め、これにテナント様に入っていただくという形で事業を進めてきました。延床面積が2,000～3,000坪規模の施設で、千葉県市川市や船橋市といった湾岸エリアでスタートし、その後は複数テナント様に入っていただける1万坪規模の施設に手を広げました。これら施設のテナントの大半は3PL事業者様です。1万坪規模の施設をまるまる使うほどの荷物を出せる荷主様は少ないため、3PL事業者様としては複数荷主様の荷物を集めるわけですが、一定数に満たない小口の荷物は受けたくないのが本音です。当社もリーシング活動を展開するなかでこれを理解し、そのような行き場のない荷物を保管するサービスが必要と考えました。そしてそのサービスを提供できる施設を開発することができれば、事業の間口はさらに広がるものと判断したわけです。このサービスが冷凍保管サービス『COLD X NETWORK（コールド・クロス・ネットワーク）』で、SREホールディングス(株)と共同設立したX NETWORK(株)を通じ、2024年10月から冷凍自動倉庫「LOGI FLAG TECH 所沢 I」(JA三井リース(株)と共同開発、写真2)にてサービス提供を開始いたしました」と話す。

LOGI FLAG TECH 所沢 Iは霞ヶ関キャピタルが企画・開発した最初の冷凍自動倉庫。X NETWORKがテナントして入居し、ここでCOLD X NETWORK提供の端緒を切った。COLD X NETWORKは、最短1日から保管可能なWEB完結型冷凍保管サービス。

図表2 マルチテナント型賃貸物流施設「LOGI FLAG」の開発・展開マップ

展開マップ （開発中のものを含む）



※霞ヶ関キャピタル(株)提供資料より抜粋

荷物保管を1パレット単位で柔軟に対応できる点が魅力で、季節要因等による需要変動に考慮して必要な時に必要な量の荷物を預けることができる。冷凍自動倉庫の空きスペースの確認から入出庫予約、在庫管理までをWEBで完結できるため、機動的で効率的な利用が可能。敷金礼金といった初期費用も不要と、メリットばかりが際立つ。冷凍自動倉庫の収納能力は4,190パレットだが、その半分近くの2,000パレット分についてはSBSゼンツウ(株)から寄託された荷物に使用しており(2024年10月から約5年間の契約)、倉庫全体の稼働率も一定水準を確保した。



写真2 「COLD X NETWORK」提供に対応する「LOGI FLAG TECH所沢 I」

武内氏は「当社が物流施設開発を、当初の床置きBOXタイプの施設開発から冷凍自動倉庫に切り替えたのもCOLD X NETWORKを提供できる体制を拡充したいと考えたからです。冷凍自動倉庫とITシステムを連動させていますので、お客様はWEB上で冷凍自動倉庫の空き状況の確認や一連の手続きが行えます。-25℃の低温環境下での入出庫業務を人手にゆだねることもないため、必要に応じて気兼ねなく入出荷を行うこともできます。なお、このサービスは3PL事業者様と競合するものではないということを強調しておきます。当社に倉庫運営を行える人的リソースは十分にはありませんし、そのノウハウに通じている3PL事業者様のサポートを受けることでこのサービスの提供を確かなものにしています。今後のサービス拡大にあっては、施設ごとに3PL事業者様との連携を図っていく方針で、全ての関係者にとってメリットのあるサービス事業になるものと考えています」と話す。

COLD X NETWORKの利用は、スペース確保型(一定期間、荷物を預けられるスペースを確保)または従量課金制(スポットで1パレット1日単位から利用可能。預けた分だけ課金)のいずれかの選択が可能。現在利用できる施設は、LOGI FLAG TECH 所沢 I と「LOGI FLAG DRY&COLD 仙台泉 I」(冷凍フロア部分に自動ラックを導入)の2カ所となっている。

冷凍自動倉庫については現在、LOGI FLAG TECH 所沢 I と「LOGI FLAG TECH 八戸 I」(BTS型施設)の2施設が稼働しており、BOXタイプの「(仮称)LOGI FLAG TECH 習志野 I」(2026年春竣工予定)を除くと、「LOGI FLAG TECH 名古屋みなと I」(2026年春夏竣工予定)、「(仮称) LOGI FLAG TECH 東扇島 I」(2026年夏竣工予定)、「LOGI FLAG TECH 越谷 I」(2027年夏竣工予定)、「LOGI FLAG TECH 大阪南港 I」(2027年春夏竣工予定)、「LOGI FLAG TECH 東扇島 II」(2027年冬竣工予定)、「(仮称) LOGI FLAG TECH 神戸須磨 I」(2027年冬竣工予定)、「(仮称) LOGI FLAG TECH 袋井 I」(2028年冬竣工予定)の7施設が開発中となっている。

COLD X NETWORKについては今後、湾岸エリアから消費地に近いエリア、さらには長距離輸送の中継地となるエリアにサービス提供を広げる方針。この点について武内氏は「点から線、線から面へとサービス提供エリアを拡大展開していくことで、COLD

X NETWORK普及の勢いをさらに加速できると考えています。そのための施設開発に関しては、当社独自のプラットフォームのもと、多数の開発プロジェクトを同時進行させることができるという当社の強みを存分に発揮してまいります」と話した。

満足度高く、竣工前にテナントが決まる「LOGI FLAG」 対応施設増加で「COLD X NETWORK」普及の公算

LOGI FLAGについて武内氏は「冷凍自動倉庫開発を進めていますが、1棟床貸しニーズの強い施設ではその希望に対応してもいいと考えています。荷主様にとっても3PL事業者様にとっても賃貸型物流施設が不足していることは事実で、ある程度の荷物量を抱えている方々は1棟借りしたいと思っているはずですよ」と話す。またテナント企業の評価については「非常に良い」とし「竣工前にテナント様が決定している物件が大半ですよ」と語った。さらに「入居後の施設運営に専門チームが一貫して対応し、PM機能も内包するなど、テナント企業様に伴走できる体制が整っています。テナント企業様が別のエリアでLOGI FLAG物件をリピート利用されるケースも出てきておりますが、それだけLOGI FLAG物件にご満足していただいているものと考えています」と話した。

一方、COLD X NETWORKの評価について武内氏は「従来の低温物流施設ではまかないきれなかった短期小口ニーズに対応するものとして高く評価されています」とし「このようなサービスがあること自体がまだ知られていない段階ですので、今後は認知度を上げていく必要があると考えています」と話す。また「サービス開始時期がたまたま10月だったため、おせち料理やクリスマスケーキの冷凍保存需要を結構獲得することができました。いずれも一時期、短期間預かってほしい荷物であり、このサービスがぴったり当てはまりました。クリスマスケーキの宅配については、破損したケーキが届くといったトラブルが報道されていましたが、COLD X NETWORKで保管されたケーキは出庫工程が自動化されており、送り先データにも紐づいているため、破損や誤配送といったトラブルは一切なく、品質面でもご満足いただけたものと確信しています」と語る。さらに「今夏も猛暑でアイスの需要が高まり、増産体制でのぞんだメーカー様が多かったのですが、増産分の保管スペースがないということでCOLD X NETWORKをご利用いただきました」とし「アイスも含め、冷凍食品の試作品は小ロットでしか生産しませんので、極端な場合は10パレットだけ保管したいというようなニーズもあるとみています。こうした荷物の保管は手間がかかるうえ期間も短く、一般的に受け入れるところはほとんどないと思いますので、そうしたニーズも全て取り込んでいきたいと考えています」と話した。

実際、COLD X NETWORKに対する問い合わせが順調に増加し、今夏、LOGI FLAG TECH 所沢 I の保管スペースはほぼ100%埋まったという。さらに1万パレット分の保管要請があり、LOGI FLAG DRY&COLD 仙台泉 I で対応できることを提案（配送など様々な相談も引き受けた）したところ、先方が了承し、大量の荷物を引き受けることができたとしている。さらに対応できる施設が増えれば、より広範なニーズへの対応できるようになり、このサービスが普及する可能性は高くなる。業界初となるCOLD X NETWORKの今後の展開から目が離せない状況が続く。



ロボティクス

共働ロボット

未来をつくる
段取りロボット
安全ロボット

スピード物流
時代をとらえる
デジタル革新 ICT
スマート工場



未来の生産・物流を イノベーションします。

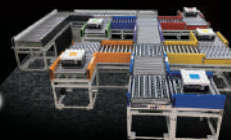
伊東電機はコア技術であるDC24Vブラシレスモータ搭載のMDR (Motor-Driven Roller) とソフトウェア技術により、時代を先取りしたコンベヤモジュール開発と、そのシステムソリューションにより未来の生産・物流をイノベーションします。



POWER MOLLER® 24
MDR -Motor Driven Roller-



id PAC
POINT AND CLICK



展示会
出展情報

2025国際ロボット展
INTERNATIONAL ROBOT EXHIBITION 2025

会期 2025年 12/3(水)～6(土)

会場 東京ビッグサイト ブース NO. 東6ホール E6-09

伊東電機 ホームページ
全面リニューアル!

効率化・省人化・コスト削減を最短で叶える
搬送ソリューションを公開



id ITOH DENKI 伊東電機株式会社

<https://www.itohdenki.co.jp/>

〒679-0105 兵庫県加西市朝妻町1146-2 TEL: (0790)47-1115(代表) FAX: (0790)47-1325

営業本部 / 本社営業課 TEL: (0790)47-1115 東京営業所 TEL: (03)3523-3011 名古屋営業所 TEL: (052)228-7175 大阪事務所 TEL: (06)6829-7723

地域未来牽引企業



経済産業省認定
グローバルニッチトップ企業

東海地方における物流効率化を目的に協業を開始 輸送ルート一元化でトラック積載効率向上とドライバー業務負荷軽減図る

コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)、中部興産(株)、(株)スギ薬局

コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)、(株)バローホールディングス子会社の中部興産(株)、(株)スギ薬局の3社は、東海地方における物流効率化を目的とした協業を10月1日から開始した。

今回の協業は、コカ・コーラ ボトラーズジャパンの工場からの納品拠点を、バローグループの物流を担う中部興産の「各務原フロントセンター」（以下、ハブ拠点）に集約し（写真）、その後、中部興産がバローグループおよびスギ薬局の物流センターに輸送を行うというもの。トラックの積載効率を高めることでドライバーの業務負荷軽減を図り、物流の持続可能性を高める狙いだ。

コカ・コーラ ボトラーズジャパンは従来、バローグループ向け製品を中部興産・各務原フロントセンター（その後のバローグループ・物流センターには中部興産の手配車両で納品）に、スギ薬局向け製品をスギ薬局・物流センター（コカ・コーラ ボトラーズジャパンの東海拠点や江南拠点を經由）に、それぞれトラックを手配して納品していた。今回の協業により輸送ルートの一元化が図れるため、トラックの積載効率向上を実現することができる（図表）。東海地方に多数の店舗を展開するスギ薬局が配送先に加わることでトラックの手配をより効率的に行うことができるため、ドライバー不足が深刻化する「物流2024年問題」への対策にもつながる。

ハブ拠点から各社物流センターへの配送については、中部興産が在庫管理、トラックおよびドライバーの手配、スケジュール調整などを一括管理する。これによりドライバーや倉庫業務従事者の業務平準化や倉庫スペースの有効活用も見込める。

今回の協業は業界の垣根を越え、東海地方を中心に深刻化する「物流2024年問題」などの社会的課題への対応に関し、3社が積極的に意見を交わし、業種を超えた新たなスキームの確立にこぎ着けた。3社は今後も限られた物流資源を有効活用し、



写真 中部興産・各務原フロントセンターに納品するコカ・コーラ ボトラーズジャパンのトラック

安定的で持続可能な製品供給を目指すとしている。



図表 3社協業スキームの概要

NEWS 01

常設展示MH機器のデモ稼働を公開

新設ショールーム「さいたまラボ」に関係者を招待

ベーヴェ システック ジャパン(株)

ベーヴェ システック ジャパン(株)は10月23日・24日の両日、物流センター向けMH機器の常設展示ショールーム「さいたまラボ」に関係者を招き、展示機器のデモンストレーション稼働を公開した。

さいたまラボは、埼玉県さいたま市南区の「ベーヴェ・テクニカルセンター」2階に開設したもの。85坪のスペースに展示場と会議室で設け、最新MH機器を「見て・触れて・語れる」体験空間となっている。展示機器は「モジュラー・バーティカル・ソーター (MVS) 」(写真)のほか、「オプティソーターH」「オートパッキングシステム」「マルチピッキングカート」「デジタル・アソート・システム (PTL) 」の5機種で、当日は招待関係者の前でその動きを披露した。



写真 デモ稼働する「MVS」

現場の整理や乱れが
アプリで見える



5S-KeePer

動画
クリック!



5S-KeePerとは？

5S活動で発生する、手間が掛かる多くの工程を一括管理できる画期的な **アプリ** です。

5S

整理

整頓

清掃

清潔

しつけ



POINT 1 スピーディな改善

これまで主流であった書面での改善活動と比べ、iPad を用いた 5S-KeePer は、チェックした指摘事項をコメントと写真ですぐに現場担当者へ通知することができます。

従来の作業行程

1	点検
2	改善点の確認・撮影
3	指示書作成
4	印刷・配布
5	改善作業・撮影
6	報告書作成
7	報告書確認
8	現場チェック

5S-Keeper 導入後の作業行程

1	点検
2	改善点の確認・撮影・その場で指示
3	改善作業・撮影・その場で報告
4	現場チェック

作業工程が半分に！

時間や労力を掛けず、スピーディに改善活動を行うことができます！



POINT 2 ペーパーレス化

iPad の使用により、指示書や報告書の印刷や集計作業、ファイリングが不要になります。ペーパーレス化により経費削減、業務効率化を実現でき、環境問題やサステナビリティへの取り組みにも寄与します。



POINT 3 クラウドサービスによる改善事項の水平展開

クラウドサービスのため、どの拠点からでも他拠点の取り組みを見ることができます。他拠点での良い取り組みを参考にすることで、無駄のない効果的な改善を展開することができます。



5S活動の継続が安心安全な職場環境をつくる！



5S-KeePer

¥6,000 / 拠点

※初期導入費用別途¥40,000

JIS マーク表示制度認証取得工場
三進金属工業株式会社

<https://it.sanshinkinzo.co.jp/>

□ 本社・工場 〒595-0814 大阪府泉北郡忠岡町新浜 1-30-10
□ 福島工場 〒963-8116 福島県石川郡平田村西山字 101



専用サイト

製品に関するお問い合わせ —

■ 東京支社 TEL.03-5822-7400
■ 中部支社 TEL.0568-75-7811
■ 大阪支社 TEL.06-6121-7870
■ 九州支社 TEL.092-925-4200

お問い合わせ ください

スタッフ募集 /
TEL 072-436-1533



「物流ソリューションフェア2025」に多数の物流関係者が来場 自動化や環境、安全などを訴求した最新ソリューションが目白押し

(株)豊田自動織機 トヨタL&Fカンパニー

(株)豊田自動織機 トヨタL&Fカンパニー（以下、トヨタL&F）は9月25日・26日の2日間、東京・江東区の東京ビッグサイトで同社独自の展示会イベント「トヨタL&F物流ソリューションフェア2025」を開催した。

同展は「自動化・省人化」「カーボンニュートラル対応」「安全で快適な現場づくり」とのテーマもと、「物流業界が抱える様々な課題に対応する最新のソリューションを『見て・触れて・体験いただける』展示」をコンセプトに、6月から9月までに全国6都市（名古屋、福岡、岡山、札幌、仙台、東京〔開催日程順〕）で開催したもので、東京開催がその掉尾を飾った。同社が扱う最新鋭の物流機器のほか、同展の開催趣旨に賛同した産業機器メーカー（各種物流機器、自動認識システム、包装機器、環境対策機器、温暖化対策機材、安全対策機材など）からは最新の製品・システムが出品され、来場した物流関係者は自社の課題解決につながる製品・システムを求め、熱心に情報収集に努めていた。

トヨタL&Fの展示のなかでは、HVOバイオディーゼル燃料に対応するエンジンフォークリフト（現段階では準備中）の展示が目をつけた（写真）。HVOバイオディーゼル燃料は従来のバイオディーゼル燃料と同じ原料から異なる技術で製造されたもので、軽油の代替として使用できる。ライフサイクルアセスメントベースでは石油由来の軽油に比べてCO2排出量の約90%削減が可能。従来のバイオディーゼル燃料との比較では、食料競合がないほか、長期保管・寒冷地使用のいずれにも対応できるなどのメリットをもつ。トヨタL&Fでは、電動フォークリフトの導入が困難な顧客層に向けたCO2排出量削減策の提案として、エンジンフォークリフトにおけるHVOバイオディーゼル燃料活用の準備を進めていることを示した。そのほかでは搭乗兼用タイプ自動運転フォークリフト「Rinova AGF」やエントリーモデルのシンブルAGV「キーカート」などが目立った。

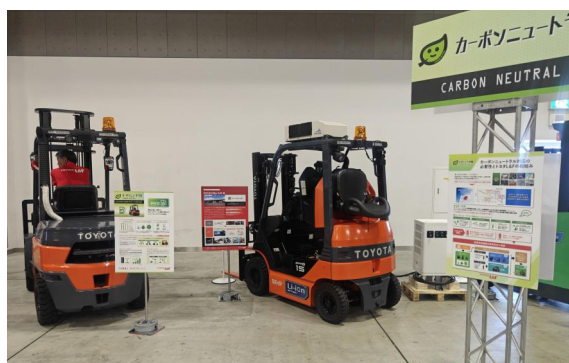


写真 エンジンフォークリフトの「HVOバイオディーゼル燃料」対応(準備中)をPR

「『つな木つながる』プロジェクト」「薄型軽量ボルトレスラック」が 2025年度グッドデザイン賞を受賞

三進金属工業(株)

三進金属工業(株)の「『つな木つながる』プロジェクト ((株)日建設計と共同)」と「薄型軽量ボルトレスラック」が、2025年度グッドデザイン賞(主催：(公財)日本デザイン振興会)を受賞した。

つな木は、45mm角の木製材専用クランプを用いて釘を使わず簡単に木材加工品を組み立てることできる木質組立ユニット（写真1）。さまざまな組織・団体などが主体となり、地域材を活かした木材加工品を産出するきっかけを作れることから、人と人とのつながりも含めた普及推進を図っているのが「『つな木つながる』プロジェクト」だ。同プロジェクトでは、つな木を活用したものづくりの普及により「木を使う文化の再生」「国産材活用による木材業、林業の活性化と育成林保全」「人がふれ合う豊かなまちづくり」の実現を目指しているという。今回のグッドデザイン賞受賞については、デザインの自在性に加え、製品開発が地域社会との連携を軸に活動を拡張している点が評価されたとしている。

「薄型軽量ボルトレスラック」は、棚板を22mmの薄さに抑えたラック（写真2）で、物流現場における効率化と作業者の負担軽減を同時に実現した実用性と優れたデザインが評価されたという。

同社は、今回の受賞を契機につな木活動のさらなる発展と薄型軽量ボルトレスラックの販売拡大を図るとともに、ものづくりにおけるデザインの活用を積極的に推進し、ブランドイメージの向上に務めるとしている。



写真1 木質組立ユニット「つな木」を用いた屋台風ブース



写真2 薄型軽量ボルトレスラック

RUNDLAX

ランドラクス

業務アプリケーション開発ツール

業務用Androidアプリ開発決定版

DXの進化したデジタル技術を浸透させることで
ビジネスをより良いものへと
変革する事に貢献します。

Androidアプリ開発のお悩み解決

これまでのお悩み

- Android専任エンジニア不足
- OSバージョンアップ時の対応にコストが掛かる

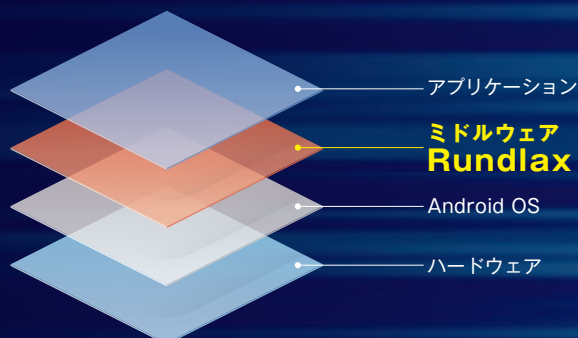
製品名の由来

新製品名は「Rundlax (ランドラクス)」。

名前の由来はRundle (輪車) + Axis (軸) の造語から成り立っています。

アプリケーションのベース(軸)として、様々な機能(車輪)を提供するとともに、
車輪と軸を組み合わせることで前に進むように、お客様と共に進んでいきたい、
シェアードシステムの次の軸(幹)となる製品になってほしい、という願いを込めた製品名です。

- Android 標準オブジェクトにより、表現豊かなUIを実現
- AndroidOS バージョン7.0以降であれば「メーカー」「機種」を問わず利用可能



Rundlaxの特長

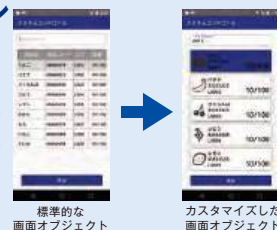
特長① Androidの基本操作

Rundlax では、
Android の基本的な操作に
対応しており、
スワイプでの画面遷移や
画面スクロールが可能です。



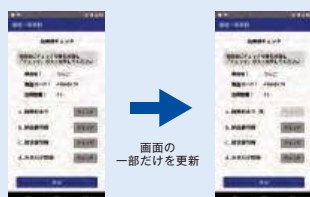
特長③ カスタムコントロール

Rundlax では、
標準的な画面オブジェクトを用意していますが、
アプリケーションの開発者がカスタマイズして、
独自の画面オブジェクトを
表示する事が可能です。



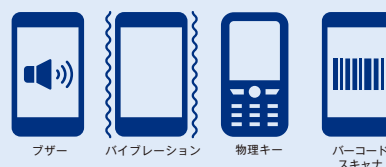
特長② 画面一部更新

Rundlax では、
サーバから表示データを受信して
画面を表示しますが、
画面の一部分だけの表示データを受信して画面を更新することで、
通信データ量を削減できます。



特長④ デバイス制御

Rundlax では、
Android 端末のブザー、
バイブレーション、物理キーや、
機種によっては端末内蔵の
バーコードスキャナが
制御可能です。



「UCHIDA BUSINESS IT FAIR 2025」を開催

物流に関連するセッション・展示も注目を集める

(株)内田洋行

(株)内田洋行は、10月24日に東京・港区の明治記念館、10月30日に大阪・北区のグランフロント大阪で「UCHIDA BUSINESS IT FAIR 2025」を開催した。同イベントはセミナーと展示で構成されており、今回は「ビジネス変革の鍵からDX実践とこれからのAI活用～」をテーマに掲げた。開催当日は東京・大阪開催ともに幅広い業種のビジネスパーソンが来場し、関心のあるセミナーを聴講するとともに展示フロアで最新鋭のソフト・ハードに関する情報収集を行った。

セミナーは「デジタル政策」「AI/DX最新動向」「AI/DX最新事例」「A活用事例」「DX実践事例」「特別講演」といったカテゴリーで東京・大阪開催とも12セッションをラインアップ。物流に関するものとしては「DX実践事例×物流業務」カテゴリーの「物流を“科学”する～泉平式“物流KPI”のレベルを高め、事業KGI達成へ～」((株)泉平 執行役員 物流本部 本部長 山口大介氏、エルテックラボ 代表 物流ジャーナリスト 菊田一郎氏) (写真1) など3セッションがあり、その内容に熱心に聞き入る聴講者の姿が目立った。

展示で物流に関するものとしては、内田洋行の「スーパーカクテルCore物流オプション」のほか、「無線式デジタルピッキングシステム」(積水樹脂キャップアイシステム(株))や「ピッキングカート/配合システム」((株)テラオカ)、「簡易配車インタフェース」(アドバンスド・コア・テクノロジー(株))が出展されており、多くの来場者がこれら展示内容に関心を寄せていた(写真2)。



写真1 物流に関連するセッションの内容に熱心に聞き入る聴講者。

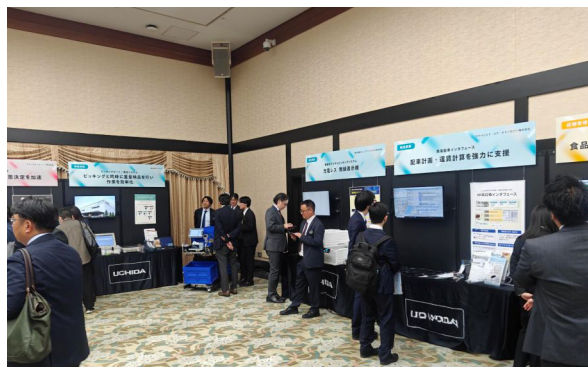


写真2 物流に関連する展示に関心を寄せる来場者多い。